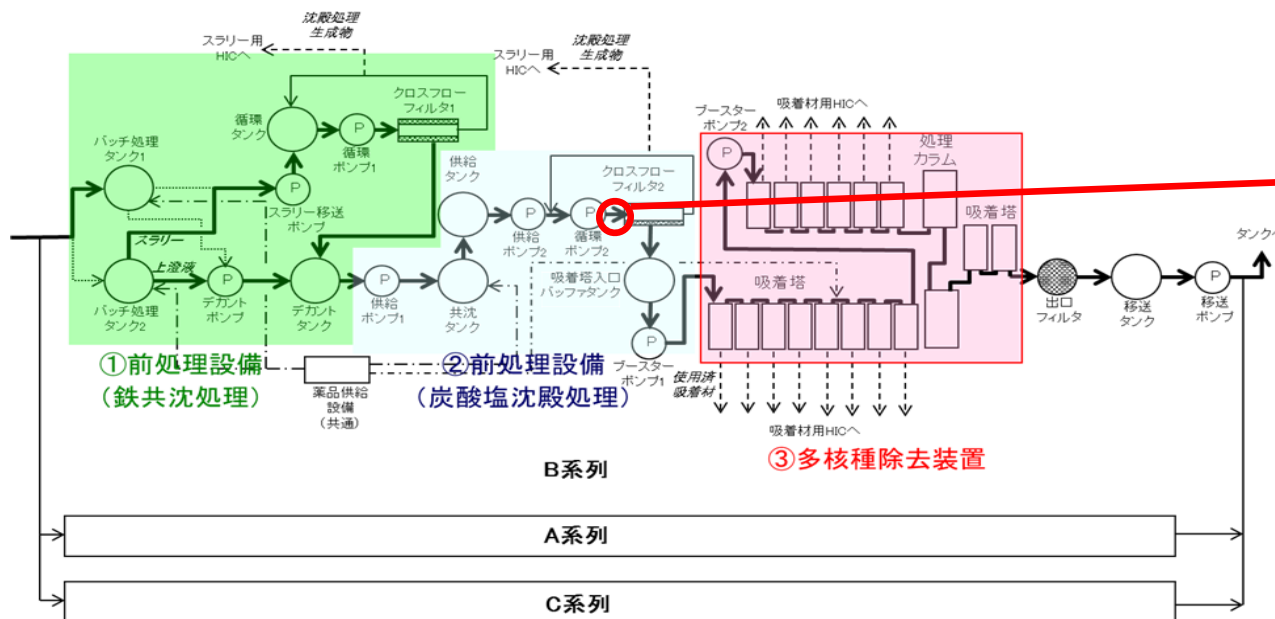


福島第一原子力発電所 既設多核種除去設備(B)クロスフローフィルター入口側配管フランジ部からの漏えいについて

< 参 考 資 料 >
 2021年9月13日
 東京電力ホールディングス株式会社
 福島第一廃炉推進カンパニー

【概要】

- 本日（9月13日）午前9時22分、既設多核種除去設備建屋において漏えい検知器が動作したことを示す警報が発生しました。その後、現場確認を実施した結果、既設多核種除去設備建屋内の堰内に水が溜まっており、前処理設備であるクロスフローフィルター入口側配管のフランジ部から水が漏えい（約2m×約3m× 深さ約10mm）していることを、当社社員が発見しました。
- 漏えいした水は、既設多核種除去設備の洗浄後の残水であり、当該フランジ部の増し締めを行い、漏えいが停止したことを午前10時28分に確認し、その後、午前11時12分に拭き取りを完了しました。
 ※直近の処理中の系統水の分析結果：全ベータ： 5.54×10^4 Bq/L セシウム134： 9.05×10^1 Bq/L
 セシウム137： 2.06×10^3 Bq/L （2021年7月15日採取）
- 既設多核種除去設備は、現在全台停止中であり、今回の漏えいに伴う敷地周辺モニタリングポスト、連続ダストモニタに有意な変動はありません。
- 今後、漏えいの原因を調査し、必要な対策を講じてまいります。



漏えい箇所の写真

配管のフランジ部